HexRace:背景設定2 Edit by Adeth Windark/2013

------§参考文献 魔界の設定については以下の作品を参考に作成している。

- a) 「デビル・メイ・クライ」シリーズ (CAPCOM) b) 仮面ライダー電王 (テレビ朝日・東映) c) ああっ女神さまっ (藤島康介) d) 3×3EYES (高田裕三)

○ 院界の成立・ 魔界がどのように作られたのか、記録は全く無い。・ 唯一、語り部の中で次のような詩を記憶しているものがいる。

初めに混濁する魔素あり。 やがて3つの渦現れり。 渦は魔素を引き裂いて天地を分けた。 渦より現われたる無数の魂魄は、 天地に散って血肉を得た。

- ・上記の詩における"魔素"とは、具象界の神話における混沌/カオスに相当する。 ・"3つの渦"とは、今の魔界の種族の根源といわれている霊素、元素、念素のこと。 これは具象界の神話では、神格化されて創造神といわれるものに相当する。 ・この渦が混沌を切り裂いて天と地を作り出し、住人となる魔神の魂をばら撒いたと いうのが、魔界の成立であったといわれている。

○魔界の文化様式 ・魔神達は生まれてすぐに高度な知能と特殊能力を獲得するため、個々の自意識が高 く、魔界では文明や文化、科学といったものはほとんど発展していない。 ・基本的な文化様式は、具象界における中世以前の部族社会に似ている。 ・各部族にはその頂点に君臨する『魔王』と呼ばれる強力な個体を中心に、部族を統 括するための貴族階級に相当する者達が存在する。

魔王(Master of Daimon) 部族を統括する最強クラスの個体は『魔王』と呼ばれる。 実際に部族の頂点として君臨していていなくても、このクラスの実力を持つ個体は 存在する。

2) 貴族(Noble of Daimon)
・部族を統括する指揮官に相当する力をもった個体は『貴族』と称される。
・この階級には魔王に準じる実力を持つものが多い。
・この階級の魔神は、爵位(いわゆる公・侯・伯・子・男)を付けて名前を呼ばれる。一部では具象界から取り入れた士官(「将官」、「佐官」、「尉官」)を使っている部族もいる。

3) 語り部(Teller of Daimon) ・知識や伝承を記憶・記録し、伝えることに専念している魔神を『語り部』と呼ぶ。 ・魔界の中では有識者であり、魔王の直下で参謀として働くことが多い。

- 4) 門番(GateKeeper of Daimon) ・空間転移や異界転移の能力に長けた魔神は『門番』と呼ばれる。 ・この階級の魔神は、個体としての戦闘能力はどちらかというと低いものが多い。 ・空間や次元の壁を自由自在に飛び越える能力を持つことから、戦略的・戦術的に貴重な存在となっている。

5) 雑兵(Minor of Daimon) ・上記の階級に属さない個体は、総じてこの階級に含まれる。ただし、その能力の高 さはピンキリなので、正確には"雑兵"とは呼ばれているわけではない。

S 魔神(デーモン) "魔神"とは、「魔界の住人であり、覇王戦争(詳細は後述)のために自らの目的を 持って行動する知的生命体」であるものとする。

○種族 魔界の住人である魔神は、大きく分けて3つの種族に分類される。これはその起源となる3つの魔素と対応している。

1) 霊素 [Spiritual] / 種族名=ラウティ・リップス [Lauti・Rips]
・ 霊素とは、生命力と精神力の根源である魔素のこと。
・ 霊素の加護を受けた魔神の種族は『ラウティ・リップス』と呼ばれている。
・ この種族には生命力の扱いに長けた『ラウティ』、精神力の扱いに長けた『リップス』という部族がおり、この種族名は部族名を禁合わせたものといえる。
・ この種族のほとんどが / 間に非常に近い姿をしている。
・ 『ラウティ』は、人間の基準からすると見目麗しく、天使のような姿をしている個体が多数いる。性別はみ、우、雌雄同体、無性のいずれも存在するが、その比率はほぼ2:4:1:3。
・ 『リップス』は、人間の基準からすると美形、もしくは妖艶な姿をしている個体が多数いる。性別はみ、우、雌雄同体、無性のいずれも存在するが、その比率はほぼ 1:7:1:1。

2)元素[Elemental] /種族名=ラトン・メーレ[Latne・Mele]
・元素とは、火水土風をはじめとするエネルギーと物質の根源である魔素のこと。
・元素の加護を受けた魔神の種族は『ラトン・メーレ』と呼ばれている。
・この種族は8種類のエネルギー/物質に相当する部族に分類され、それぞれが対応するエネルギー/物質を操ることに長けている。
・その外見は人型であるものも多いが、エネルギーや物質の塊をしていたり、合成獣のような姿をしている個体も多数いる。
・具象界で知られる悪魔(ソロモンの72柱の悪魔など)は、ほとんどこの種族に属しているといっても過言ではない。
・この種族の性別は♂、そ、無性の3種類でほぼ占められており、その比率はほぼ3:3:4。

3) 念素 [Material] /種族名=ライ・レータム [Lai・Retam] ・念素とは、時間と空間の根源である魔素のこと。 ・念素の加護を受けた魔神の種族は『ライ・レータム』と呼ばれている。 ・この種族には、時間や空間を操ることに長けたものが多い。 ・他の種族よりも個体数は極端といっていいほど少ないが、個々のポテンシャルは非常に高い。

最近では異界(特に具象界)との接触により、金属と機械を操るものが現れた。 その外見は、人間とはかけ離れたものがほとんど。時計(砂時計や振り子時計)、 魔方陣、彫像のような姿をしているものが多く見受けられる。 この種族の中では少数派のようだが、ロボットのような姿(そのほとんどが金属と 機械を操ることに長けている)をしているものもいる。 この種族の性別は、ほとんどが無性。極稀に無性以外の性別を持つものもいる。

〇魔神の性別

魔神の性別・ ・魔神にはぷ、そ、雌雄同体、無性の4つの性別が存在する。 ・魔神同士の交流において、その性別が意味を持つことはあるが、魔神の数が増える ことについては、この性別は直接関係ない。 ・魔神は、必要なら自分の一部を切り離して、自分の子孫や分身にあたる個体(=子 供)を、単独で作り出すことができる。そのため、性別に関係なく一人で子供を作 ることができる。 ・子供は複数で作ることもできる。必要なのは作る際に分け与える力を誰が提供する かであって、その性別は関係ない。 ・作られた子供の性別は、作ったものが決めることができる。

§ 魔神と部族 ここでは魔神とその部族、代表的な魔王について説明する。

1)生命力の扱いに長けた部族『ラウティ』
 人間に非常に近い姿をしているが、耳がとがっていたり、翼を持っていたり、尻尾があったりと、どこか人間ではない部位がある。
 治癒と回復の技に優れており、いとも簡単に死者の蘇生を行う個体も多数いる。
 ・治癒と三額の基準で言うと見目麗しい外見のものが多いため、具象界では神や天使として扱われることが多い。

する。 心と魂を操るため、具象界では"人間にそっくりな姿をした悪魔"として扱われる ことが多い。

●放蕩妖魔"リリア":♀
・外見はグラマラスで妖艶な女性で、蝙蝠の翼と先端が槍のようになった黒い尻尾を持つ。
いわゆるサッキュバスに分類される魔神で、具象界では"リリス"や"リリム"とも呼ばれる
・感情を操ることに長け、相手から生命力を奪う戦法を得意とする。
・意外にも他人の傷を癒す能力も持ち、その女王様的な性格とカリスマ性で、部族内では魔王として絶大な人気を誇っている。
・一説によるとこの部族の半数以上は彼女の配下だと言われている。

○元素/ラトン・メーレ
・この種族は、魔界の人口の約6割を占めているといわれている。
・エネルギー/物質に分類された8つの部族がいるが、種族内はおろか、部族内でも統制がとれていないものがほとんど。これは、部族毎の性質が、他の部族と反発する(例えば火と水)ものがあるためだといわれている。

1) 火の部族『フレイマー』
 ・火山を中心に生息する火と高温を操る部族。
 ・人型の個体も多いが、鳥型(フェニックス)、トカゲ型(サラマンダー)といた個体も数多いる。

●火炎魔神"ヴォルカーノ": ♂ ・火の部族の中で最強の個体と噂される魔王。 ・人型をしているが、瞳は白熱化しており、髪の毛は炎でできている。 ・本気を出すと、地面が溶岩と化すほどの火炎を放出し、周囲を焼き尽す。

●岩石鰐"ロックジョー":♂
・全長5mほどの岩でできた鰐。
・部族中もっとも巨大な個体で、その力の強さより魔王として君臨している。
・非常に喧嘩早く、好戦的で知られている。
・体高は1mほどしかないが、"背の高い他のものは全て自分を見下している"という被害妄想を抱えてあり、自分より背の高い者と視線が合うたびに「何を見下してんダァ!!」と攻撃を加える。

5) 光の部族『ルミネティ』 ・この部族の個体は、ほぼ人型に翼を持つ天使の姿をしている。 ・部族そのものは天使のヒエラルキーに従って厳格に階級分けされており、非常に統制が取れている。そのため、一部の例外を除いて必ず集団で行動する。

●光天使"ルミエル":無性 ・人型で一対の翼を持つという部族共通の外見だが、全身がほぼ光の塊で、体の各部位は削られた水晶体を繋ぎ合わせたロボットのような姿をしている。 ・頭は六角水晶のようで、目も鼻も口も耳も無い。 ・普通に会話できるが、その体の構造のせいか、声はエコーがかかっている。 ・部族を完全に統括し、不敗と呼ばれるほど高いレベルの戦術指揮を行う魔王。

 ○ 影の部族 『シャード』
 この部族は、大半が間やタールの塊のような不定形の姿をしている。
 ・少数ながらしつかりとした姿の個体がいるが、その外見は死神とか乾いた死体 (ミイラ) のような不気味なものがほとんど。
 この部族は極端に数が少なく、しかもそのほとんどが覇王戦争に興味が無い。
 この部族の興味は異界に向けられており、その半数以上が具象界に出向いているといわれている。

雷鳥"サンダーバード":♀
・外見は大型犬ほどの大きさの金色の羽毛を持つ猛禽類。
・常時、体のどこかが放電しており、触れるだけで基大な被害を及ぼす、
・その体のためか、常時飛行しており、どこかに着地することは滅多にない。
・他の部族からは、雷の部族の魔王と思われており、実際に魔王クラスの能力を持っているが、電の部族の中では孤高の存在。
・羽毛の色を除くと、その外見は風の部族の魔王"ストームバード"とそっくりで、この2体は兄妹ではないかという噂がある。

○念素/ライ・レータム ・この種族は、魔界の人口の約1割を占めていると思われているが、他の部族との闘 争や交流を好まないものが多いため、その実体はあまり知られていない。 ・集団を作らず、各自が個々に生活しているようで、覇王戦争にも消極的。 ・器物のような外見をしているものなら、近くにいてもその存在が気づかれないこと が多々ある。 ・魔王と呼ばれるほどの実力を持ち名の知れた個体は、ほんの数名だけ。

●時の番人"クロノーム":無性 ・胸の部分に砂時計が埋め込まれた人型の石像のような姿をしている。 ・滅多に姿を現さないこの種族の中では、おおっぴらに活動した時期があるので、 他の種族/部族にも名前が知られるようになった。 ・時間と空間の両方を高いレベルで操る強力な魔王。

●機械獣王"クロックウルフ":無性 ・普段は人型のロボットのような姿をしているが、高速で移動する必要がある場合 は、全身の構造を組み替えて狼のような四足獣の姿に変形する。 ・単独であちこちを彷徨っており、その行動目的は明らかになっていない。 ・この種族の中では若い個体のようだが、その戦闘能力は魔王に匹敵する。

○ □素 / ラウティ・リップス ・主たる栄養源は、ラウティなら生命力、リップスなら精神力となる。 ・どちらの部族もそれを直接奪うための能力を所持しており、それらが最も効率のよい食事となる。 ・対応する能力をもたない個体でも、相手を生きたまま食らうことで必要な栄養を摂取することができる。 ・一方で味覚や体組織が人間と近い固体は、人間と同じような食事をすることも可能。この種族で具象界に傾倒している魔神には、具象界からシェフと食材を取り寄せ、王侯貴族のような食事を作らせているものもいる。

○元素/ラトン・メーレ ・エネルギー/物質と強く結びついているこの種族は、文字通り該当するエネルギー /物質を吸収、もしくは食することが食事となる。 ・食事の際、そのエネルギー/物質が純粋であればあるほど、良い食事ということに

なる。 摂取するエネルギー/物質の純粋さにおいて、岩の部族だけは違う見解を持ってい

る。 る。 ・岩の部族は、土、砂、岩、鉱石などを食することで栄養を摂取するが、個体によってどれを美味しいと感じるかは差があり、例えば岩を好むものでも、その成分に鉄分が多いか、珪素が多いかなどで違う味だと感じる。 ・覇王戦争における岩の部族の目的の1つとして、豊かな岩脈ノ鉱脈の奪取がある。

○念素/ライ・レータム ・この種族の食事は、自らが得意とする能力(時間、空間、機械)によって異なる。 ・時間を得意とする個体は、時間の流れそのものからエネルギーを得る。 ・空間を得意とする個体は、空間そのものからエネルギーを得る。異界への門が開く 場所など、空間の歪みが発生する場所では、より効率よくエネルギーを得られる。 ・機械を得意とする個体は、周囲の電磁波からエネルギーを得る。具象界、特に人間 の住む都市は、電子機器のために電磁波に溢れているため、このことを知った個体 は、エネルギー補給のためだけに具象界を訪れることがある。 ・いずれの場合も、その食事のために必要なのは、"微動だにせず停止する"こと。 停止している間=エネルギーを摂取しているということになる。

○ 従属種族
 ・ 魔界にいるのは魔神だけではなく、魔神ほど霊格の高くない種族も多数存在する。
 ・ 一部の種族は、ある魔神の部族に従うことで庇護を受けている。
 ・ そのような連中は"従属種族"と呼ばれ、魔神に仕える従者や召使いのような役割を担っている。

〇霊素/ラウティ・リップス

)ラウティ
 ●小天使タイニーエンジェル・翼を持った子供の姿をしている。・異を持った子供の姿をしている。・具象界では"キュービット"とも呼ばれる。・知能は人間並みだが、性格は見た目のとおり子供であるものが多く、我侭に振舞っている個体も少なくない。・部族の中では召使のような立場だが、どちらかというと愛玩動物のような扱いであることも少なくない。

2)リップス ●飛翔小鬼インプ ・頭部に小さな角、蝙蝠の翼、先端が尖った尻尾を持つ小鬼。

・非常に個体差が激しい種族で、外見も知能もピンキリ。 ・従属種族として仕えているのは、比較的知能の高い連中がほとんど。

〇元素/ラトン・メーレ

○ 人の部族『フレイマー』
 ● 鍛冶小人ドワーフ
 ・ 身長1mと少しほどの小人の姿をした種族。
 ・ 恰幅の良い体格で豊かな髭を生やす習慣を持つため、小柄な人間の老人と間違われることもある。
 ・ 知能は人間並みに高く、火炎に対する耐性を持ち(火炎に無敵では無い)、採掘能力に優れている。
 ・ 溶岩などを利用した金属加工技術にも優れており、炎の魔神が持っても壊れない強度の武諸果を作ることができる。
 ・ この種族県の武諸果を作ることができる。
 ・ 火の部族は良質な火や武具をドワーフから得、ドワーフは金属鉱石の入手や溶岩からの防御を火の部族に頼っている。

2) 水の部族『ストリーマー』
 ●蛙小人フロッグ
 ・身長1m足らずの直立二足歩行する蛙のような姿をしている。
 ・知能は人間並みで、手先も器用なので、様々な雑用をこなす。
 ・水中でも空気中でも普通に呼吸でき、水中では驚異的な速度で移動可能。
 ・粘度の高い振りる液体を分泌して全身を覆うことができ、これによって水のほとんどない乾燥した地域でも平気で活動できる。

3) 岩の部族『ジオー』

●大小人コポルト

・身長1m足らずの直立二足歩行する犬のような姿をした小人。
・知能は人間に少し劣るぐらい。
・そのほとんどが純心で素直な性格をしており、命令には従順。
・手先が器用で、何故か料理が上手。

4) 風の部族『ストーマー』

 ●風妖精シルフィード
 ・身長1m足らずの昆虫(蜻蛉)の羽根を持つ妖精。
 ・全身は半透明で、動かないでいると周囲の空気に溶け込むことができる。とどちらかというと生き物というよりも精霊に分類される存在。
 ・見た目に反して力が強く、数が集まれば重量物を移動させることが可能。

5) 光の部族『ルミネティ』
●光妖精ブリンク
・身長わずか3cm程度で、背中に昆虫の羽根を持つ小妖精。
・全身が発光しており、飛行すると光の玉が移動しているように見える。
・その大きさから物理的な役には立たない。
・非常に記憶力が良く、伝令や記憶屋として使われている。

6) 影の部族『シャード』 個体数が少ないため、この部族には従属している種族はない。

7) 氷の部族『フロスティ』

●雪達磨スノーマン
・身長1mほどの雪達磨。手足を持ち、顔は棒を埋め込んで作ったような、正に雪達磨の顔をしている。
・具象界では "ジャックフロスト"と呼ばれることもある。
・どの個体も帽子、マフラー、手袋をつけ、ブーツを履いているが、その色もデザインも様々で、これが個体を織別する目印になっている。
・氷の剣と盾を作り出し、口から超低温の吹雪を発射できるので、氷の部族の戦力としても使用されている。

8) 雷の部族『アーク』 その特殊な生態環境からか、この部族に従属する種族はいない。

○念素/ライ・レータム

●発条兵クロックワークポーン

・身長1mほどで、チェスの駒(ポーン)に手足が生えたような姿をしている。
・頭部は球体だが、目、鼻、口に相当する部位がある。
・背中にはねじ回しが付いており、動いている間は回転し続ける。
・手足やねじ回し、目、鼻、口は全て体内に収納することができ、そうなるとチェスの駒にしか見えない。
・必要に応じて大量に出現し、様々な作業をこなすことができる。
・個々の自我があるようには見えず、常に集団で行動するので、実際にはゴーレムに近いものだと言われている。

○覇王戦争における魔神の役割・自らの種族や部族と決別しているのではない限り、全ての魔神は覇王戦争を戦い、 自らの種族や部族を勝利に導くために戦っている。・魔神の行動指針として、覇王戦争における魔神の役割を以下に列挙する。

1)戦力の増強 ・覇王戦争を戦いぬくためには、自らの陣営の戦力増強が求められている。 ・主に行われているのは、以下の3種類。 a)参加していない同種の部族のものを引き入れる、 b)異界から戦力を調達する c)自らが強くなる

2) 敵戦力の偵察・敵対する勢力を撃破するため、その戦力の偵察が必要。・相手の戦力を分析できれば、弱点や有利に戦いを進めることができる。

3) 敵戦力の殲滅

が、戦術的な指揮が行われたとしても、魔界での戦いは個人レベルの戦闘に終始する。 ・戦いたくなくても狙われることがあるため、必要に応じて敵戦力の殲滅が要求される。

4) 敵拠点の制圧

 ほとんどの種族と部族は、自らの陣営を強化/休息するための拠点(陣地、都市、村と呼ばれることもある)を持っている。
 拠点では食料の供給の他に、秘宝が隠されていたり、強力な魔王が眠りについているということがよくある。

5) 同盟や共同戦線のための交渉 ・必要に応じて、他の種族や部族に同盟を求め、共同戦線を張ることがある。 ・そのために交渉役が立てられ、使者として送り込まれる。

○恋焦がれる魔神達 ・異世界の住人とはいっても、思考パターンは人間とあまり大差無い。そのため、魔神の中でも恋愛感情が発生する。 ・一口に"恋愛感情"と言っても、部下に付けたいという支配欲、恋愛感情とも捉えかねないほどの惚れ込み(漢惚れ)、互角の戦いを繰り広げる内に芽生える友情など、様々なものがある。 ・単純に恋愛感情が発生するのは矛と♀の組み合わせが多いが、魔界ではその琴線に触れるものがあれば、相手の性別は関係無い。 ・その恋愛感情の相手は敵対する部族の魔神ということもありえる。 ・魔王としての力は無くとも、魔王クラスのカリスマ性を持つ個体もおり、それを獲

得するための争いも、よく発生する。 同様に、異界の住人(特に具象界の人間)に惚れ込んでしまって定住してしまうも のや、溺愛するあまり魔界へ連れてきてしまうものもいる。

- 捜索対象となっている魔神達
 ・ 覇王戦争の中では、しばしば特殊な能力を持つ個体が争奪戦の対象となる。
 ・ 純粋な戦略ユニットとして求められるのがほとんどだが、魔王や貴族の魔神が、特別な感情をもってその個体を欲しているという裏事情を持つこともよくある。
 ・ 以下にその争奪戦の対象となっている個体を列挙する。

1) 鬼子母神"ハリティエ"/♀/影の部族 ・具象界では"ハリティー"とも呼ばれる鬼女の魔神。 ・あらゆるものを惹きつけずにはおれない圧倒的な母性と存在感を持ち、一時、様々な魔王から求愛を受け、その結果、何人もの魔王との間に数千(一説には数万とも)の子供を作った。 ・途中で、子供達が覇王戦争で命を散らしていくことを嘆き、自ら亜空間を作り出して全ての子供達ともに引きこもった。 ・彼女とその子供達はその亜空間の中で眠りについている ・通常の魔界の空間からは切り難されたところにいるため、その正確な位置は誰も知らない。

- ・ 連系の院外の空間からは切り離されたとこうにいるため、その正確な位置は誰も知らない。 ・ ひとたび彼女を目覚めさせ、その子供達を配下につければ、魔界の軍事バランスを 崩壊させるだけの戦力が手に入ることになる。 ・ 魔界では単なる伝説となりつつあるが、彼女を知る一部の魔王は、今も捜索を続け ている。

- 2) 真珠姫"パールマティー"/♀/ラウティ ・具象界では"パールヴァティー"とも呼ばれる魔神。 ・真珠のような光沢のあるプラチナの髪を持つ少女の姿をしている。 ・額には第三の目を持ち、普段は前髪で注意深く隠している。 ・彼女は現在、行方不明である。覇王戦争の戦乱を嫌い、具象界に身を潜めていると いう噂がある。 ・魔神としては貧弱な存在だが、彼女の第三の目は他に類を見ない強力な能力を秘め ている(下記を参照)。

 - ●パールマティーの特殊能力「完全復元」
 ・記憶している目標を完全に復元する。
 ・目標は死亡しても瞬時に蘇生できる。
 ・仮に目標が完全消滅しても、1分たらずで0から復元できる。しかも、復元途中でも可能な範囲でなら行動できる。
 ・蘇生ノ復元された目標は、死亡ノ消滅する寸前の全ての能力と記憶を全て持って復活する
 ・目標はパールマティーとどれだけ離れていたとしても復活できる。標を覚えておくことはできない)。
 ・目標を憶えるには1分間、目標に触れて集中している必要がある。
 ・目標を信えるには1分間、目標に触れて集中している必要がある。
 ・目標をでえるには1分間、目標に触れて集中している必要がある。
 ・自標を含えるには1分間、目標に触れて集中している必要がある。
 ・個表記ではいつでも一瞬で忘れることができるが、その際に目標に関する記憶も全て忘れてしまう。これによって忘れられると、二度とこの特殊能力の目標になることはできない。
 ・彼女は額の第三の目でこの効果の目標を憶える。
 ・憶えた後、第三の目がは日本限となる。

 - ない。 ・不老不死の魔神が最も恐れる"消滅死"からも復活できるこの能力を、全ての 魔王が欲しているとい過言ではない。
- 3) 観察鏡"ミール"/無性/ライ・レータム ・古めかしい額縁を持った楕円形の鏡の姿をした魔神。 ・鏡に映った相手の全ての過去を見通す力を持ち、今まで写した全ての相手のことを 記憶している。そのため、この魔神は語り部であるといわれている。 ・あらゆる魔王の弱点を知っていると噂されており、争奪戦の対象となっている。 ・器物としての外見の上、自らほとんど動こうとしないため、ただの鏡としてどこか に放置されている状態。 ・噂ばかりが先行して正確な姿(額縁の形など)が伝わっていないため、なかなか発 見されないでいるようである。